

民報 ゆうばり 党創立100周年記念講演会開催 「旧夕張市美術館収蔵作品展2022」開幕

党創立100周年記念講演会 一党道副委員長はたやま和也氏語る一

9月3日岩見沢市で開催された党創立100周年記念講演会で、党道副委員長・元衆議院議員畠山和也氏が南空知の闘いにふれながら講演しました。



主催者を代表して上田久司南空知地区委員長は7月の参議院選挙での奮闘をねぎらい、これまで32年間で亡くなった党員450名に対し黙祷。さらに党50周年記念文芸応募作品入選「ひとすじの道」(作詞・作曲相馬公信)を紹介し、来年のいっせい統一地方選にむけて頑張り合うことを訴えました。

畠山氏は「党の100周年の中で、昨年の衆議院選挙は初めて本格的な自・公政権交代をかかげての闘い。引き続き参議院選挙では、2月24日ロシアによるウクライナ侵略戦争で、党に対する誤った見方や平和憲法を攻撃し、軍力増強を求める動きが強まった。日本共産党は『ロシアは国連憲章を守れ』と主張。「今では国際的に主要な流れ」とのべました。

「南空知には2つの不屈のたたかいがあります。1つは長沼生まれの野呂栄太郎。彼は大学でマルクス経済学にふれ、『自分の進むべき道は資本主義を倒すことにある』と後に『日本資本主義発達史』を刊行。そして『社会には苦しみがある。苦しみの中に楽しみがある』との思いで若い世代に訴えました。

2つは『そらち民報創刊号』(1970年)からですが、1面に夕張炭鉱閉山闘争の中、反共ピラがまかれたこと。これは労働者の怒りをそらすためのもの。2面は反共攻撃の真のねらいはどこにあるかと題し、労働者の怒りと闘争を共産党に対する中傷によって切り抜ける。「これが会社のねらい」とすばり説明しています。」さらに1971年の全道労協三笠市閉山・分離反対闘争の記録。大夕張炭鉱から移住し、栗山町議となった原田議員誕生までの6年のたたかい、岩見沢市国鉄員職場500名の要求活動、異常低温・冷害被災者に向けた共産党の緊急政策、1973年札幌地裁長沼自衛隊違憲判決の記録などが掲載。

1980年代以降「日本共産党を除く」社公合意の壁が長く続く中、90年天安門事件、91年にソ連崩壊。学生自治会再建運動で信頼している人の薦めで3カ月かかって入党。国民を裏切らない不屈性、科学的社会主義、統一戦線の政治姿勢の歴史に誇りと確信を持つとうと呼びかけ、講演を終りました。



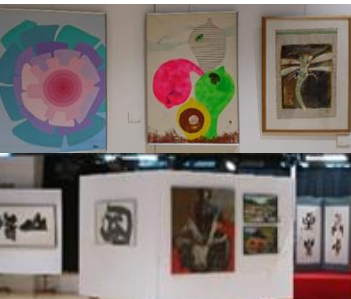
「美術館倒壊後初！」 「りすた」で一堂に公開

8月11日(木)から21日(日)まで、夕張市拠点複合施設りすたで「旧夕張市美術館収蔵作品展2022」が開催されました。夕張市美術館は2012年2月、積雪により倒壊し、その後閉館。奇跡的に無事だった作品群は現在まで保管されてきたものの公開の場が限られており、地元では念願の大規模な展示となりました。



市内ゆかりの作家37名の作品125点が一堂に会し豪華な会場。お盆休みの帰省客を含め市内外より500名程の来場者

「ここにフクロウがうつつから見える「こねは猫かな？」」

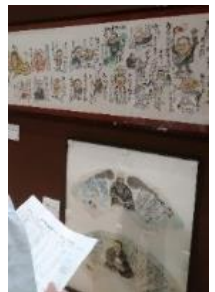


「まちに眠る記憶を ゆっくり想いおこす」

が訪れ、絵画、版画、書、写真から移りゆく夕張を懐かしみました。

会期中はアートコミニケーターとの鑑賞会や、北海道教育大学教授三橋先生による市民学習講座も開かれ対話から地域の作品をより深く鑑賞。

「美術館は人をめぐり逢わせる空間」という担当職員の言葉に、文化のかけがえない力を感じました。



対話型鑑賞を楽しむ参加者

夕張市真谷地に生まれた政治漫画家 森熊猛(もりくまたけし)について

夕張市真谷地に生
まれ、21歳で北海夕
イムス社の「月曜漫
画」に投稿、一等を
得てプロレタリア文
化活動に参加、札幌
漫画研究所を開設し
ています。

翌年特攻刑事に連
行され一ヶ月拘留さ
れました。

1934年、小林
多喜二の妻であった
伊藤ふじ子と結婚、
当時の妻の所持品の
中であつた多喜二の



遺品を全て保
存しておくこ
とをいとわな
かつたそうで
す。

生涯、政治
漫画家を貫き
反骨精神に溢
れた愛の人。
夕張にも寄
贈作品が多数
現存し、今回
もその多くが
展示されまし
た。



没前 2003年 夕張市
美術館で個展を開催

くずさんの 夕張歴史散歩(186)

石炭のはなし (ズリ山) ②

北炭夕張鉱のズリ山と言えば一番
に上げられるのは、前号の写真、社
光のズリ山でしょう。その形と言
い規模と言ひ、まさに絵になる山で
した。

明治に夕張で石炭が掘り出され
て以来、明治の終わりにころから築いて天に及ぶ社光の
ズリ山は、昭和25年1月まで索道・ケーブルで運ばれ
捨てられてきました。(挿絵・参照)

危険な索道

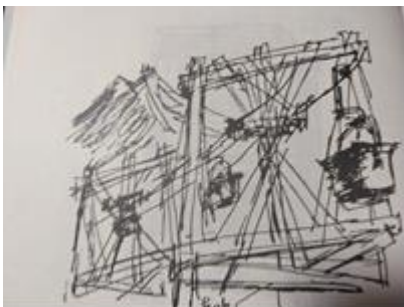
このズリ山の丁度すそ野に、筆者が三年間通学した
東山中学校があり、塀をめぐらして飛んでくるズリを
防ぐのですが、その塀を飛び越してグラウンドまで転
がり込むこともしばしばでした。しかも、通学路であ
り社光地域の主要な生活道路でもある真上を、横断し
て索道が張られ、ケーブルにつるしたバケットが外れ
て落下したり、揺れるバケットから満載のズリがこぼ
れたり、誠に危険な索道でした。

道路に木枠のトンネル

余りにも危険な道路な
ので、ケーブルの張られ
た真下に、坑内で組まれ
たような坑木で防ぎよ枠
を作りました。

毎日の通学には、その
木枠のトンネルを走って
危険を避けた思いがあ
ります。

※訂正 7月24日号で、「福住人車」の設置箇所を、雄飛橋のたもと
付近と書きましたが、正しくは「錦橋」でした。



ズリ山索道 小林画



岩淵 友「国会書け歩き」
参議院議員
岩淵 友

広がる「国葬反対」の世論と運動

「国葬反対」「国葬ではなく国会を開け」—こん
なコールが沸き起こった8月31日の国会前大行
動。主催した総がかり実行委員会の発表では参加者
は4000人。これだけの市民が国会前に集まるの
は久しぶりのことです。大いに励まされました。

街頭で訴えていても「国葬反対」への怒りが寄せ
られます。こちらをじっと見つめる方、「署名をや
りたい」と声をかけてくださる方も。市民の運動や
「国対ヒアリング」などを受けて、当初は総理出席
を拒否していた議院運営委員会での閉会中審査で
総理が説明すると言ひ出しました。

いつもなら「国会が決めること」と言ひ逃げる
のに、自分の言ひたいことだけ言ひ、説明したと
強行しようとする。

これほど国民をないがしろにするやり方はあり
ません。中止へと追い込むためにみなさんと声をあ
げていきたい。

国会で議論しなくてはならないことが山積みで
す。8月31日、災害特別委員会での理事懇談会で、
8月3日から続く大雨の被害の実態について省庁
から説明をうけ質疑を行いました。

ところが、理事懇談会ということで公開もされなけ
れば議事録もないのです。委員会の開催を求めると、
他の委員からも「その通りだ」と意見が出まし
た。

胆振東部地震から4年。現場の声や運動と結んだ
国会論戦で、災害による被害から生活しと生業を再
建するための対策が拡充されてきました。
さらなる拡充へ力を尽くす決意です。